

令和6年度
不動中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「家庭学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組もうとする生徒の育成」
- ②「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができる生徒の育成」

学力向上・学習支援委員会構成

学力向上推進員	委員	岩佐 隆義(校長)	島田 佳美(教頭)
天羽 和恵		吉田 則子(教務・3年主任)	
		佐藤 康徳(1・2年主任)	
		矢部 恵子(特別支援教育コーディネーター)	

校長

岩佐 隆義

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返り等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○テストに向けて課題などに取り組み、学習内容を理解しようとする生徒はいる。 ●学習に対して受動的であり、学習意欲の喚起や基礎的・基本的な知識・技能の定着につながる支援が必要である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着し、さらに活用することができる。	・朝学習と帰りの学活での活動を連動させ、一定期間、継続して行う。 ・生徒の知識、技能の定着状況を検証し、見直しを定期的に行う。 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を設定し、定期テストで問題を出題する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思考が求められる発問に対しても考えて答えようとする生徒もいる。 ●文章にまとめて書いたり、人に説明したりすることが苦手な生徒が多い。	・使用できる語彙を増やし、伝えたいことを適切に書いたり、話したりして相手にわかるように伝えることができる。 ・仲間と協働的に粘り強く学習することができる。	・自分の考えを表現する学習活動の場面を設定する。 ・授業での課題設定や形態、発問の工夫。 ・コミュニケーション力を高める支援方法などの校内研修の実施。 ・話し合い活動の実施。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や朝学習に真面目に取り組むことができている生徒もいる。 ●睡眠不足などの生活リズムの乱れから授業に集中できない生徒がいる。また、家庭学習において、主体的・継続的に取り組めていない生徒が多い。	・学びをふり返り、不十分なところを理解することができる。 ・自ら課題を見つけ、主体的に家庭学習に取り組む、家庭学習の習慣を身につけている。	・毎時間、振り返りの場面を設定。 ・ノートを活用して学習に取り組むことができるように支援する。 ・宿題の出し方を工夫し、教員間で情報を共有しながら個別に支援する。 ・学習内容に応じたICTの有効的な活用。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

